

トピックス

日本という国 食い物にされた土着民族

山本文子

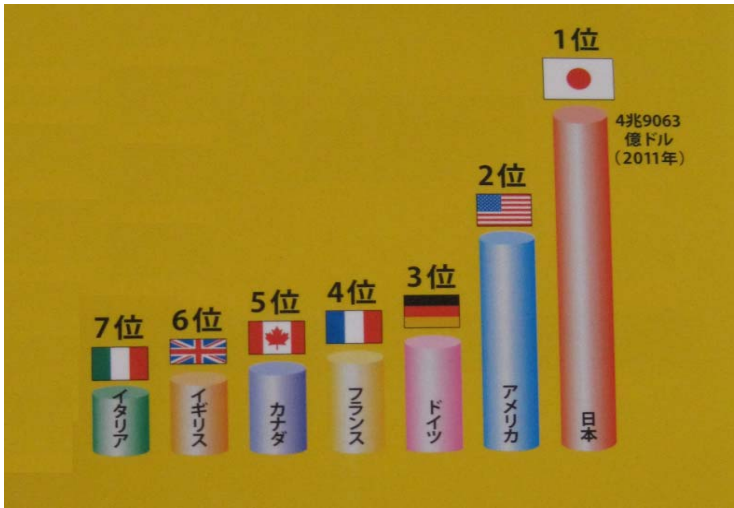
世界一の日本

何が世界一か、と例えば「日本の政府資産」である。「政府資産」とは国の財産を指す。敗戦のとき、天皇家の資産が日本一のみならず、世界王国中の一位という多額だった。日本政府は国民から搾り取って自分達の懐を肥やすことが世界一うまいということになる。いみじくも、オランダ生まれのカレル・ヴァン・ウォルフレンは言った。「日本人は富める国の貧しい国民である」

国に絞り立てられる不幸な日本人よ、という意味だ。敗戦によって日本は七年間GHQの占領下にあった。GHQは天皇家の資産解体にとどまらず、公務員制度の改革の必要を感じて、それを実行に移そうとした。ところが狡猾な大蔵省の引き延ばし戦術によってGHQ案は換骨奪胎されてしまった。政府資産世界一を作る体質は変えられることなく、七年の占領期間が終わってしまったのである。どのようにして政府が国民を絞り上げるか、その楽屋裏

G7各国の政府金融資産の額

(高橋洋一著『日本は世界一の政府資産大国』表紙カバーより)



をばっちりと見せてくれたのが、元財務省勤務高橋洋一著『日本は世界一の政府資産大国』(二〇一三年刊)である。

目についた目次を拾い出して見るだけで実態が推測できる。

- ・ 日本国の資産総額は六百二十九兆円!
- ・ 官僚天下り先に流れる二百兆円
- ・ 四十六兆円も余っていた特別会計
- ・ 公営ギャンブルは公務員のために
- ・ 毎年数兆円の埋蔵金が生まれる
- ・ 十二兆円も水増しされた財政赤字
- ・ 埋蔵金を隠す財務省のポケット
- ・ 役人が狙う年金準備金百兆円

何といつても本文の中から拾い出した次の言葉は驚きの一語に尽きる。そこまで酷い国だったとは、ああ知らなかった。

「日本国の資産は世界一、まさに金メダル級だ。それを国民の目から隠し、自分たちだけで自由に使うことが財務省の願望である。」

ところで、日本は他の点でも世界一だったものが色々ある。まず浮かぶのは長寿国であること。その理由として私は無駄な延命治療によるところもあると見ている。死にゆく人の思いなど無視した金んだ医療体制のせいだと考える。

また日本は自殺率も先進国の中では首位である。自殺大国と言われるフランスを大きく引き離して首位になったのが一九九八年。以来、断トツの首位は続いている。これは何を意味するか。国民が不幸になった証拠と言えよう。明らかに政治の貧困劣悪が招いたものではないか。独裁政治には自殺に見せかけた暗殺が含まれたりする。かつての大戦へ突入する頃の日本には言論の自由がなかった。人権無視、暗殺などざらだった。残念なことに平成のいまの日本はそれに近づいてきた。新刊書店を覗くと政情が分かる。完全な右傾になってしまった。それだけではない。

もう一つ日本には私が声を大にして叫びたい「世界一」がある。それは国民の命を軽視する残酷さにおいてまさに世界一だったこと。あの大戦の時、世界各国が驚き恐れおのきその反面で、呆れもしたのは日本の特攻隊だった。生還不能の兵器を作り、それに自国兵を乗せて飛ばせた日本政府の非情ぶりは、他国にとって理解を超えるものだったらしい。

「どうしてあれほど非人情なことができたのか。何という国なんだ、日本は」と。

私たち同世代が集まった時にはしばしば話題にされてき

た事柄である。

「なぜ？」のその答えがようやく私に見えてきたのは最近である。キーポイントは明治維新の真相そのものの中にあった。日本の国は明治維新によって百済系朝鮮人たちがつちりと抑え込まれてしまっていたのだ。彼らの心が冷酷なのは、単に異民族であるがためのみではなかった。征服者としての驕りを持って国民を冷遇する心が充満していたためであった。私はようやくそれに気付いた。日本を支配している百済人には支配民族としての驕りが溢れているためのやりたい放題。その結果が冒頭から幾つも並べてきた「世界一」の事相に表われていたのだ、と判断した次第である。百済民族に支配されている限り、日本の民主主義は破壊される一方である。早く手を打たねば、との焦りを覚えるのは私たち戦争体験者の共通心理である。あの戦争の責任を取って百済民族は支配者の座を降りるべきであり、天皇制廃止がその第一歩である。天皇ではなくて、天皇制の黒幕そのものに責任がある。

官僚の正体

日本の官僚は世界一悪質なのか。

なぜそうなってしまうのか。私が官僚体質に不審の念を起したのは一九九五年末娘が第一種国家公務員試験を受けた時からだった。「なぜ?」「どうして?」「変だな」と思うことばかりの公務員採用方式だったからである。第一種だけが奇妙だった。第一種にしても、第一種にしても、

また、地方公務員にしても、合格すれば大方は採用になる。ところが第一種だけは違う。合格しても不採用率が高い。まず、採用人数の倍ぐらいの合格者が出る。合格すれば三年間は各省庁を訪問して内定を取る資格が与えられる。ということは、前年度、前々年度の合格者までがライバルとなり、採用率は更に下がる。三年間かけてあちこちの省庁巡りをすればどこかへは入れそう、と思うのは甘い。ここで大きな問題にぶつかる。コネ。コネがないと採用は難しい、というのが実態だからである。コネによる人選を活かしたいから合格者を二倍にし、省庁訪問資格を三年間にしたものと考えられる。

私の末娘は同じ試験区分の受験者一九九八人中の四番という好成绩で合格を果たした。けれども結局採用は諦めざるを得なかったのである。拙著の中にこれを書いたところ、同様の体験者から出版社経由でお手紙を頂いた。あの採用

法は確かに問題だ。超優秀な成績で合格した御子息がコネがないばかりに不採用。男泣きした。しかし才能を活かして別の職を得て国際的に活躍されているとの内容だった。これらは採用から外れた合格者のみを知る日本の異様な現実だ。

何のためのコネか。私は直感する。百済王族の子孫を自認する天皇が象徴である日本。百済系帰化人の子孫たちで高級官僚の座を埋め尽くすために、こうした奇妙な採用方式が生まれたのだ。表向きは別の言い訳でこの方式を正当化していると推量される。

さらに問題なのは、宮内庁が国家公務員試験とは別枠採用で、しかも天皇家同様の世襲制つまり血筋尊重であること。これは実に奇妙だ。父のあとを継いで息子も、となる。宮内庁から他の省庁へ出向したり、他の省庁から宮内庁に出向したりする。百済人は天皇制によって宮内庁のみならず、他の省庁へも影響力を及ぼしているに違いない。宮内庁と高級官僚を百済人で占めてしまえば、百済人天国である。こうして、日本の国は百済人に支配されつばなしになっっているわけだ。

確実に、天皇制こそが百済人の天下取り手段なのである。

靖国の正体

小泉純一郎元首相と安倍晋三首相の靖国参拝へのこだわりを見ると、私の心は一気に戦時中へ引き戻され、じわつと不安が広がってくる。またあの恐ろしかった時代がやってくるのではないかと、と落ち着かなくなる。八十六歳の私が兄を通して知った軍人教育知識から言えば、靖国神社は明らかに日本の軍国主義の温床なのだ。中国や韓国の苛立ちは無理もない。

三つ違いだった私の兄は中学一年修了と同時に、大阪陸軍幼年学校生となって家を出ていった。十三歳からの数日間をかけて幼年学校と士官学校を通してみっちり受けた軍人教育は現代の若者には到底想像できそうにない厳格奇酷なものであった。彼らの生活は親許を離れての合宿生活だからたまったものではない。起床から始まって就床まで上官の監視と叱責怒声の下で走り回らねばならない。衣類や布団のたたみ方から用具の扱いに至るまですべての点で動作の機敏と整然を求められる。上官の命令は天皇の命令として絶対服従。ここには自由も平等も一切ない。すべてが一方向的に監視され、支配され、命令され、強制され、抑

ちこそ我が家の誇りとはかり喜び合っていた母や祖母だったが、やがて、死ぬことばかり強制する教育に気づいて青ざめ始めた。「幼年学校なんか入れなければよかった。殺すために入れたようなものだ。必ず死ななければならぬんだもの」「ヒロシは死ぬかなあ」と言っただけで泣き、つられて祖母が泣いた。夏の夕方、縁側の隅で母と祖母がぼそぼそと語り合い、鼻水をすすり上げているので、耳を澄ませてみたらそういう声が聞こえてきた。親として耐えられない思いだったろう。

私にしても似たような心境であった。蝉取りや魚すきに兄の後ろをついて歩くのが楽しかった私は、兄がいなくなつて寂しくてたまらなかつた。晴れて鈴鹿山脈のくつきりに見える日には「兄ちゃんはその山のずっと向こうにいるのだなあ。会いたいなあ。早く夏休みにならないかなあ」と思いながら遠い山脈を眺めた。ようやく訪れた夏休みのなんと楽しかったことよ。久しぶりに兄にくっついてカプトムシや蝉取りをした。楽しい日は実にあっけなく過ぎてしまう。

休暇が終わって大阪へ戻って行く兄に離れ難くて、弟と二人で勝川駅まで片道2キロを足の速い兄に遅れまいと小

庄のみの生活である。中でも一番大きな問題は軍人教育の柱ともいべき死の強制であった。それは「靖国」と「天皇」の二つを柱として「死ぬ、死ぬ」の強制に終始するものであった。「天皇は神である。天皇のため、お国のために死ぬ。死ぬば靖国に祀られ、神である天皇が礼拝下さる。日本人として最高の榮譽である」この訓示が少年たちの骨髄まで深く叩き込まれた。卒業文集の生徒の言葉にそれがしつかり表われていた。「靖国で会おう」死を受け入れられている言葉だ。「天皇は神だ」という大嘘つきの言葉に騙されて「死ぬ、死ぬ」という殺人鬼の言葉に素直に従っていった少年たちがあまりにも哀れ過ぎる。天皇制は神を名乗ったこと一つだけを見ても極めて悪質だ。なのに、それが裁かれることなく温存してきたのは危険極まりないことだった。これでは大日本帝国へ逆戻りしないはずがない。日本の若者たちは天皇制詐欺によって殺されたようなものだ。兄が受けた教育を身近に見守ってきただけに私にはよく分かる。陸軍幼年学校生は小型の軍帽と軍服に身を固め短い軍刀を腰に下げて、きびきびと歩くその姿は可愛らしくも凛々しくて魅力的だが、中身は地獄だったのである。難関を突破して陸軍幼年学校生になった兄を、初めのう

走りで行ったものである。駅に辿り着くと兄はシャキッと立ち止まり、拳手の礼をして改札口へ消えていった。思い出すことはまだある。兄こそ一番つらかつたであろうと思ひ出されるのは、大阪へ出立という日の朝、布団にくるまったままなかなか起きようとしなかつた兄の姿である。「兄ちゃん、家から離れたくなかつたんだなあ」と思うと今でも涙が滲んでくる。

もう決して、決して、私の兄や母のような苦しみを日本国民に味わわせたくない。なのに・・・。

安倍晋三首相は第一回目の首相の座を降りるときに言い放つた。「民主主義はよくない」また、二〇一二年だったかの衆議院議員総選挙の選挙演説で街頭に立つたときの第一声は「人間には命を捨てても守らねばならないものがある」だった。それこそまさに軍国主義復活である。「おお、嫌だ、嫌だ。こんな人が首相になったら大日本帝国に逆戻りして、日本はお終いだ」私の心は恐怖におののいている。

「明治維新」という嘘と罪

私は戦争体験の辛さから、あの戦争の責任者に対する怒

りがなかなか消えない。いったい誰のせいで戦争は起こったのか、について歴史のおさらいをし、随分考えてみた。二〇一五年八月十四日に宝島社から刊行された原田伊織監修『日本近代史「明治維新」という嘘』は鋭いところを突いていて参考になった。

「明治維新」を見直さなければ日本の未来を描くことはできない。

薩長が敗れていたなら、日本は侵略戦争を起こしていない。

幕末から現代に至るまで、長州の政治家たちのDNAは脈々と受け継がれている。彼ら「長州閥」が近代日本を動かす、そして滅ぼす一因も作っていた。

書の末尾の「現代に受け継がれる長州のDNA」と称する系図には赤枠で囲まれて伊藤博文、桂太郎、岸信介、佐藤栄作、安倍晋三の名が連なっている。考えてみるとこの人たちは揃いも揃って百済系帰化人の血を引いているのではないか。明治維新は、藤原氏（始祖鎌足は百済王子豊璋と同一人物の説あり）に関わりある二人、伊藤博文と岩倉具視が、長州（山口県）と薩摩（鹿児島県）のどちらも田布

施という朝鮮人集落民たちと組んで起こしたクーデターであった。こうまで百済人づくめとあつては、私たち世代の間で定説になっている「日本人はおとなしいが、朝鮮人は性格がきつい」が当たっていたことになりはしないか。こう考えると恐ろしくなってくる。

重複になるがここでTHINKER著『マスコミとお金は人の幸せをこうして食べている』¹³⁶ 137頁から一部分をそのまま転載する。

「有力者の出身をたどると、山口県や鹿児島県の朝鮮人集落から政府内の重要なポストに就いている政治家が意外と多いのだ。例を挙げると、安倍晋三の祖父で首相の他数々の要職を務めた岸信介とその弟で三期首相を務めた佐藤栄作は、山口県の田布施村という朝鮮人集落の出身である。

また小泉純一郎の父であり、防衛庁長官を務めた小泉純也は鹿児島県の田布施村という、同名の朝鮮人集落の出身である。

しかし、なんとといっても山口県の田布施村出身で注目すべき最重要人物は、明治天皇である。本名は大室寅之祐。通説では、明治天皇は幕末に若くして病死した孝明天皇の第二皇子とされているが、これには多くの疑惑がある。実

のところは、孝明天皇は息子ともども長州藩に謀殺され、田布施村出身の若者大室寅之祐が明治天皇になりましたという説がある。この学説は『明治天皇替玉説』というもので、歴史から葬られた日本の闇である。」

戦争の陰に必ず百済人あり

私が恐怖を覚える政治家が揃って百済系帰化人の血を引くのは偶然ではあるまい。名を挙げてみよう。

・近衛文麿

藤原鎌足の直系子孫。一九三七年六月に首相になり早々の七月七日に盧溝橋事件を起こし、日中戦争に突入させたのはこの人。また真珠湾攻撃の手前まで自分が首相を務め、戦争体制を推進させておいて、攻撃の五十日前にさつと身を引き、東条英機に首相の座を押し付けた。そしてアメリカへの和平交渉を始める、という抜け目のなさ。東条英機は長州人でも薩摩人でもない土着民であったため、嵌められたとの記述を読んだ記憶がある。

・森善朗元首相

二〇〇〇年首相になった途端に「日本は天皇を中心とする神の国だ」と言ったことは有名。つまりは熱烈な神道信

者イコール百済系ということか？ 森善朗首相が密室で決

められたことは百済系への転換の表われか？ 東京オリンピックの要職に同氏が早々と名を連ねたことによって、私には日本が百済系に支配されているとの実感が強まった。

・小泉純一郎元首相と父小泉純也

その父祖は明治維新に関わり深い鹿児島県の田布施出身。父小泉純也が防衛庁長官として在職中にベトナム戦争が起こり、アメリカに対しフリーフレーの旗を振ったことは有名。小泉純一郎元首相の在職中にはイラク戦争。父同様に積極的に協力し、アメリカに核の存在を疑うように仕向けたと言われている。

・安倍晋三首相と外祖父岸信介

明治維新の立役者たちの出身地山口県の田布施出身一族として名の挙がっている岸信介はこの人の外祖父である。岸信介といえば安保闘争が浮かぶ。反対者たちに銃口を向けるという強硬姿勢の首相だった。平成のいま、民意を無視して採決を図ろうとする強硬姿勢は祖父岸信介になんとよく似ていることか。共に親米派であることまでが。

平和は武力で守れるものではない。敵をつくらないことこそ平和につながる。いまの日本に、平和を壊す要素があ

るとしたらそれは「嫌中」や「嫌韓」思想である。妙なことに「嫌北朝鮮」がない。なぜか。北朝鮮は日本を支配している百済人にとって同族だからだ。

功が罪か

朝鮮人集落は、山口県や鹿児島県の田布施だけではなく、広く日本各地に存在している。私の住む名古屋にもあって、中村区には朝鮮学校もある。日本全国では朝鮮学校が七十校ほど存在する。市外の知多には二つの朝鮮人集落があり、全員が神道に属して天皇制を支持しているそう。朝鮮人集落は、明治維新より遙か昔に渡来してきた百済人たちが寄り集まってできたものと考えられる。

国家神道というのは、古来からあった信仰の上に乗っかる形で明治政府がつくり上げたものである。例を挙げると天皇家の祖先天照大神が祀られているという伊勢神宮は明治維新以前には、「農業神社」の名で地元民に崇められている小さな社だったそうである。「天皇家の血筋」も「明治政府の土台」をつくったのも百済系朝鮮人であった。彼らはその血筋をひた隠しにし、大和民族のふりをした上に、天皇を神の子孫に仕立て上げ、赤の他人だった旧来の天皇

家の血筋に繋げて万世一系を名乗り、日本土着民族をひれ伏させてしまった。拳句は、神である天皇のために死ね、死ねとばかり多くの日本国民の血を流させた。なんと卑劣な話で、これは悪質な騙りだと私は思う。その罪は誰にあるか。追及すべきであろう。明治維新まで遡って考える必要があるのではないか。

私の友人に、神道に属する人がいて「自分は天皇の子孫だ」と誇らしげに言う。「何天皇なの?」と訊いても、答えはなかった。朝鮮半島の百済の国が滅びたとき、日本へ亡命してきた帰化人の子孫でありながら、血筋をひた隠しにした上に、「神の子孫である天皇のために死ね」と言っ

て多くの日本国民を死に追いやったのは詐欺罪ではないか。そういう血筋の子孫に誇る資格があるだろうか。

本来ならば裁かれるべき戦争責任の当事者が、敗戦後も責任を負うことなく支配者であり続けてきたがために、平成のいま再び戦う国に戻ろうとしている。危うきかな、日本。どうすれば阻止できるか。

まず策略好き戦争好きの百済系帰化人子孫には引っ込んでもらうことが絶対必要だ。明治維新を起こして天下を取ったような民族には、危なくて日本の国を任せられない

からである。

土着民族よ、賢くて勇氣ある日本人になれ。そしてあなたたち土着民族の手で民主主義と平和を守り抜くのだ。

住みたい国

武力では

平和を守れない

武力は戦争を引き起こす

強い国ではなく

信頼される国

愛される国に住みたい

なにがあっても

戦わない国に住みたい

すべての人間を

大切にする国に住みたい

(二〇一五年九月二十七日)